

# 日本が担う責任：G20、G8、そしてAPEC

日本総理大臣 菅直人

[スピーチの印刷版をご希望の方はここをクリックしてください。](#)

低解像度のPDFバージョンをダウンロードしたい方はここを右クリックするか、[Newsdesk](#) サイトをご覧ください

日本は、世界経済回復の援助に積極的に取り組むと同時に、2010年アジア太平洋経済協力（APEC）の議長として、アジア太平洋地域における地域統合および包括的な経済成長の促進を計画しています。

現在私たちは、新たな試練の時代に生きています。今日ほど国際的協働が重要視されたことは、過去にありませんでした。世界が劇的に変化する中で、カナダで開催されるG8およびG20サミット、および11月に日本で開催されるアジア太平洋経済協力（APEC）フォーラムの首脳会談は非常に重要な意義をもっています。それゆえ、カナダと日本に課された責任は軽少ではありません。

世界経済は今や最悪の事態を乗り越えましたが、我々は現在の経済状況に満足してはなりません。高い失業率に悩む国は今も多くあります。人々が日常生活の改善を実感できるような、包括的な経済成長の達成が要求されています。大自然が豊富で多様文化の国であるカナダを訪問するにあたり、スティーブン・ハーパー首相をはじめその他の指導者の方々と共に、世界経済の将来について率直な議論ができることを期待しています。

## 世界経済とアジアの役割

私たちは、世界経済が、強靱かつ持続可能で均衡のとれた経済成長へと確実に移行するよう、景気の回復が完全に定着するまで、努力を継続しなければなりません。また、各国が構築した政策がいかに関与して世界経済に対して集合的な影響を与え得るかを深く理解しなければなりません。

2010年度の日本の財政予算は、子ども手当や高校授業料の無償化など、各家庭への支援を直接の目標とした新しい政策を策定しています。私は、財政再建を目指して中期および長期的なロードマップを作成し、日本の社会経済構造を変えるため、さらに踏み込んだ予算分配の再検討を試み、経済成長に役立つ新たな機会を探求する意向です。強い経済、強い財政、そして強い社会保障を合わせて実現することにより、日本経済を建て直し、それをもって世界経済の復興に貢献します。私はこのメッセージをG8およびG20の参加国に伝え、それと同時に、新興経済諸国にも自国の責任を遂行するよう呼びかけるつもりです。世界経済

を力強い成長への道筋へと確実に引き戻すには諸国間の緊密な協働以外に方法はないからです。

2009年9月のピッツバーグサミットは、G20を国際経済協力にとって最も重要なフォーラムに任命しました。日本はG20を、先進国と新興経済諸国とが世界経済の管理について討議できる重要な機会として位置づけています。トロントサミットでは、景気回復と持続可能な成長、金融規制の強化、および国際金融機関の改革を達成するために、更なる努力が必要とされています。具体的には、G20がピッツバーグで同意したように、各国が経済政策を相互評価するために、強靱で持続可能な、均衡のとれた経済成長のための枠組みを継続的に実施することが重要です。さらに、今回の危機は、我々自身が築いた金融システムを統制できなかったことが理由の一部であることに踏まえて、世界各国と協働し続け、より強く、より健全な金融監視および規制制度を確立します。

アジアは、最近の経済危機から迅速かつ弾力的に回復しています。アジアは、その力強い成長により、世界経済の原動力となっています。アジア太平洋地域は世界経済成長の中心的存在となっており、日本は2010年のAPECの議長を務める機会に恵まれました。今年は、自由で開放的な貿易および投資というボゴール目標を達成するAPECの産業経済諸国にとって、飛躍の年となるでしょう。したがって私は、21世紀に向けて「変化と行動」というテーマのもとでAPECを再形成する意向です。

日本を議長とするAPECは、さらなる地域統合を促進し、地域全体に中期および長期的な経済成長政策を構築します。このような成長戦略は、限られた国のみでなく、すべての国に恩恵を与えて包括的な成長をもたらし、また環境とエネルギー問題も念頭においた上で、持続可能な成長を達成しなければなりません。私は、地域諸国による努力とともにこのような対策を通して東アジア社会を対象としてイニシアティブを促進する意向です。

11月には、ソウルのG20サミットに引き続きAPEC首脳会談が開催されます。私は、G20サミットの議長を務めるにあたって、日本の重要な隣国である韓国を強く支援し、ソウルサミットを成功させるため最大限に協力することを約束します。私は、G20とG8を通してアジア太平洋地域の声と経験を世界へ伝達すると同時に、均衡の取れた地域開発を達成するため、G20とG8からのメッセージをAPECへ伝達することにより、G20、G8、APEC間の相互効果を強化することが、日本の役割であると考えています。

地球規模問題について

包括的な成長を追及するにあたって、我々が忘れてはならないのは、貧困その他の地球規模の課題です。世界中の子どもはみな、人間の安全保障が実感される社会、つまり飢餓、伝染病、地雷または衝突のない社会、飲用水や初等教育が入手可能であり、人権が保護される社会に生きる権利があります。

また、気候変動の課題もおろそかにしてはなりません。地球温暖化の脅威は現実であり、今年、総括的で新たな法定を導入するために、国際社会の協働能力が試されます。日本は、温暖化ガスの排気量を、2020年までに1990年レベルから25パーセント削減するという非常に意欲的な中期的目標を設定しており、国際的な交渉の場面でも主役を担うことになるでしょう。また、日本が有する環境技術を利用して、地球に優しい革新を積極的に促進します。

多様かつ人類にとって必須であるこの地球を次世代へと引き継ぐ義務は、私たち一人ひとりが担うものであります。生物多様性条約締約国会議の議長として、日本は、生物多様性の総合的な保護と生物資源の持続可能な利用に向けて、地球規模の努力を先導します。

G8は、このような地球規模問題の対応において重要な役割を果たしてきました。自由や民主主義などの基本的価値観を共有することでG8の重要性は支持されており、将来も維持されていくことでしょう。

私は、開発、特に母体と子どもの健康を主要議題とするG8ムスコカサミットの議長であるハーパー首相の指導力を全面的に支援します。国連サミットも9月に予定されており、ミレニアム開発目標達成期限の2015年のまで残すところわずか5年となった今年は、非常に重要な年であります。国際社会は、これらの目標を達成する統合された意思を明示することが要求されており、G8は、主要資金供与者として、このような地球規模の努力を先導する責任を担っています。また、平和構築問題に取り組み、開発の必須要件として平和と安全保障を定着させることも、G8の当然の義務であります。

国際社会は今、イランや北朝鮮などにみられる政治かつ安全保障に関する緊急課題に直面しています。G8は共通の基本的価値観で結束されており、参加国は国際平和と安全保障に対する責任を分担しています。G8の首脳陣は、このような課題を率直に討議し、それに取り組む決意を国際社会に明確に伝えるべきであると考えています。

終わりに

今日、全世界が前代未聞の変動の中を生きており、いかなる国も、複雑な地球規模問題を自力で解決することは不可能です。いかなる枠組みもまた、単独で問題を解決することは不可能です。私は、責任を遂行する意欲と能力を備えた各国々と協働し、G20、G8そしてAPECという枠組みを通して世界経済およびその他の地球規模の問題に取り組む覚悟でいます。